

環境と健康

発行者
一般財団法人 ~みんなの生命をまもりつづけたい~
広島県環境保健協会
佐藤 均
広島市中区広瀬北町9番1号
郵便番号 730-8631
電話 082-293-1511番
振替口座01380-2-27511
URL http://www.kanhokyo.or.jp/

新年のご挨拶

あけまして
おめでとうございます

公衆衛生推進委員の皆さまをはじめ、健康と環境の課題に取り組まれている皆さまには、平素から地域に根付いた活動



理事長 佐藤 均

を通じて、県民の健康づくりと住みよい環境づくりにご尽力いただき、誠にありがとうございます。

2023年11月、広島市で第64回広島県公衆衛生大会が開催されました。健康で住みよい地域を次世代に繋げていくためには、多くの人が参加しやすい「コミュニティ組織」づくりが必要と考え、「災害時に活かせる共助体制づくりと公衆衛生生活の推進」「積極的な活動が担える人材の育成とあらゆる主体と連携した活動の推進」など6項目に取り組むことを宣言しました。公衆衛生推進委員の皆さまには、引き続きご協力をお願いします。

2023年度からスタートした第2次経営ビジョンは、10年後に実現したい将来像を「信頼と技術で」「価値を共創する環保協」としました。公衛協をはじめ

とした多くの関係者の皆さまと新たな価値を共に創り、地域社会やお客様から選ばれ続ける組織を目指し、役員が丸となつて事業に取り組んでいるところです。

2024年の干支は辰年です。「辰」という文字には、「理想に向かって粘り強く努力し、困難と闘いながら人生を進んでいく」という意味があるそうです。第2次経営ビジョンをスタートさせた環保協と公衛協の皆さまが、より一層連携して目標に向かって、一歩一歩着実に前進していく年になつてほしいと思います。

最後になりましたが、新年を迎えるにあたり、協会運営に引き続きご支援とご協力をお願いしますとともに、皆さまのご発展とご健康をお祈りし、新年の挨拶とさせていただきます。



参加者を巻き込んで、楽しく体操を行う石田先生
(地域活動支援センター)

第64回広島県公衆衛生大会開催 6つの活動指針採択

共感を広げ、助け合い、問題解決に取り組むことを宣言



第64回広島県公衆衛生大会「健やかな暮らしをつくる人々の集い」が、11月29日に広島市の佐伯区民文化センターで開催され、県内各地から公衆衛生推進委員や行政事務担当者など、約360人が参加しました。

この大会は、公衆衛生の向上に日々努力する個人や団体、知識や体験を交流しあい、真に健康な県民生活の実現に寄与することをねらいに開催されており、式典や講演などを進めてまいりました。

大会宣言文を読み上げる園尾俊昭議長

は、県知事、県医師会長および環保協理事長から公衆衛生活動において多大な成果をあげた33個人・6団体の功績を称え、表彰状が授与されました。

次に、地区衛生組織代表者会議の園尾俊昭議長が大会宣言文を読み上げ、災害時における公衆衛生活動、フレイル予防などの健康づくりおよび地球温暖化や海ごみなどの環境問題に取り組むこと、積極的な活動が担える人材育成などを宣言し、会場の大きな拍手によって採択されました(宣言文は下記)。大会宣言活動の柱となります。

大会宣言

私たち公衆衛生推進委員は、積み重ねられた歴史の中で、行政や他団体と協働しつつ、自主的・組織的なコミュニティ活動をとおり、健康で住みよい地域づくりに努めてきました。

近年、少子高齢化や、コロナ禍による交流の場の減少により、地域コミュニティが希薄化しています。また、環境づくりや健康づくり、地球温暖化など、私たちの周りには取り組むべき課題が山積しています。

健康で住みよい地域を次世代に繋げていくためには、地域コミュニティに多くの住民が参加することにより、互いの繋がりをつくることで共感を広げ、助け合い、問題解決に取り組んでいくこと、そして、それを継続していくことが必要です。

そこで、この大会を契機に、次の6つの項目について、より積極的・効果的に取り組む決意を示し、地域リーダーや関係者一同の情熱と知恵と行動力を結集し、その実現に向けて邁進することを宣言します。

- 1. 災害時に活かせる共助体制づくりと公衆衛生活動の推進
- 2. プラスチックごみや不法投棄ごみの撲滅による生活空間の美観の確保と快適な環境づくりの推進
- 3. フレイル予防を目的とした健康づくり活動の推進
- 4. 住民・行政・事業者の連携による脱温暖化のまちづくりの推進
- 5. 積極的な活動が担える人材の育成とあらゆる主体と連携した活動の推進
- 6. 上記の5つの項目を実現するため、多くの人が参加しやすいコミュニティ組織づくりの推進および強化

令和5年11月29日



一般財団法人 ~みんなの生命をまもりつづけたい~
広島県環境保健協会
〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)
TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520
かんほきよう 検索

基本理念
みんなの生命(いのち)をまもりつづけたい。
私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、持続可能な社会の発展に貢献します。



瀬戸内海環境保全に関する衛生団体合同研修会を開催 廿日市市公衆衛生推進協議会が受賞 活動報告を行い、交流

瀬戸内海環境保全地区組織会議、(公社)瀬戸内海環境保全協会、北九州市環境衛生総連合会の主催で「令和5年度 瀬戸内海の環境保全に関する衛生団体合同研修会」が、11月10日に北九州市で開催され、瀬戸内海の



ブルーカーボンについて講演いただいた鍵本先生(上) 感謝状を受け取る廿日市市公衆衛生推進協議会 今津会長(下)



沿岸県市で活動する住民団体のリーダー102人が参加しました。活動功勞として、2個人、3団体に感謝状が贈呈され、広島県からは「廿日市市公衆衛生推進協議会」が表彰されました。

北九州市環境局長の柴田泰平様からご祝辞をいただいた後、電源開発株式会社若松総合事務所所長補佐の鍵本広之先生から「ブルーカーボンとは?」海藻による炭素吸収の可能性、私たちにもできること」と題してご講演いただきました。鍵本先生からの提案で、事前に参加者の移動、会場の光熱、飲食などによるCO2排出量を試算して、若松総合事務所構内設備で認証されたJブルークレジットでオフセットする事で、今回の合同研修会は力

ーボンニュートラルイベントとして認定されました。その算出に係る資料やカーボンオフセット証書を会場の入口に掲示し、講演の中でブルーカーボンやJブルークレジットについて分かりやすく説明していただきました。その他、藻場造成に係るより良い生育環境の工夫についての紹介もあり、2050年カーボンニュートラルに向けて、私たちが取り組める身近な脱炭素の取り組みとCO2の吸収・貯留が必要であることを学びました。

午後からの体験交流・意見交換では、今回表彰された3団体のうち2団体の活動報告と、当協会の事業報告を行い、活発な意見交換が行われました。来年は50回目の記念開催で、広島県内で開催されます。今後も引

き続き、瀬戸内海沿岸県市の活動が活性化するように、充実した研修会を目指していきます。(地域活動支援センター)



環境生活センターの東部支所について紹介いたします。

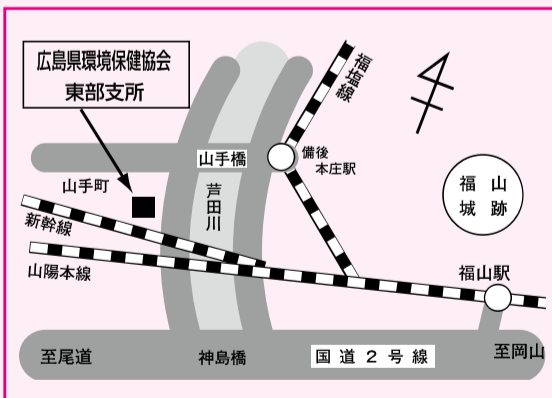
東部支所は、福山市山手町、「芦田川」の右岸土手沿い、新幹線と交差する辺りに位置し、新幹線からも3階建ての淡い水色の建物を確認できます。屋上には10KWの太陽光発電パネルを設置し、発電した電力を全て施設内で利用しています。職員は現在11名で、

県東部エリアの業務を担う 多様化・複雑化するニーズに応える

本部と連携して大気測定などの環境調査業務、食品の微生物検査を中心に、水質検査や衛生検査を行っており、本部をコンパクトにした形で多種多様な業務を行っています。食品検査は食品GLP登録検査員が、水質検査は水道GLP登録検査員が、衛生検査は臨床検査技師がそれぞれ検査業務に従事し、日々技術と検査精度の向上に



励んでいます。業務エリアは、広島 県東部を中心に鳥取・岡山・四国地方へも営業範囲を拡大しています。広域で顧客からの



東部支所のアクセスはこちら

業務の問い合わせや依頼にも対応できるよう、専門の渉外担当者を配置しています。このため、支所の職員には環境水・土壌・大気などの調査分析・アセスメント、飲料水検査、食品検査・衛生検査に関するオールラウンドな対応力と幅広い知識が求められています。

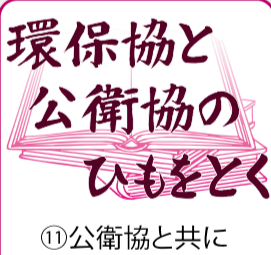
近年、地域社会やお客様の課題が多様化・複雑化しています。皆さまから信頼され、必要とされる検査機能をめざし、これまでに蓄積した技術と知識により安全で豊かに暮らせる未来の実現に向けて活動してまいります。(東部支所 佐藤道博)

法人移行契機に10年ビジョン 8つの柱で公衛協支援や技術向上

環境協は、2013(平成25)年4月、公益法人制度改革に伴い「一般財団法人広島県環境保健協会」へ移行しました。新法人への移行は、さまざまなリスクや将来的持続性などを考慮して判断されました。言うまでもなく、前提は公衛協の育成や支援、コミュニティにおける公衆衛生や環境保全の向上をめざした事業を継続することでした。

環境協は、新法人への移行を契機に、新たな基本理念「みんなの命(いのち)をまもりたい。」を掲げ、それを達成するために10年後のあるべき姿を描いた第1次経営ビジョンをまとめました。経営ビジョンでは、社会やお客さま、職員と共に取り組む8つの柱を定めました。この10年間で新たに組み込んだ活動や事業には、次のようなものがあります。

公衛協活動の支援においては、社会ニーズに呼応して防災・減災に寄与する人材の育成のほか、口腔



①公衛協と共に

ケアやフレイル予防に着目した健康づくりモデル事業の推進などに取り組みました。また、新しい技術や地域課題を把握するため、企業や大学との連携・研究も積極的に行いました。

各種活動や事業の基盤づくりに関しては、技術向上のための人材育成や専門技術の承継、ITの活用による電子納品サービスの導入や健診に係る誘導支援システム構築など、サービスの充実を図りました。さらに、持続的に安定した経営を行うため、人間ドック・診療におけるオプション検査の導入や受診枠の拡大、廃棄物処理施設など公共施設の試験やコンサルタント業務などにも取り組みました。

2023(令和5)年4月、環境協は第2次経営ビジョンをスタートさせました。私たちは、これからも新たな時代を公衛協と共に切り開いて行きます。このシリーズ終わり。(経営企画課 山下 祐治)



ジェネリック医薬品を使っていますか 医療費全体の効率化への期待

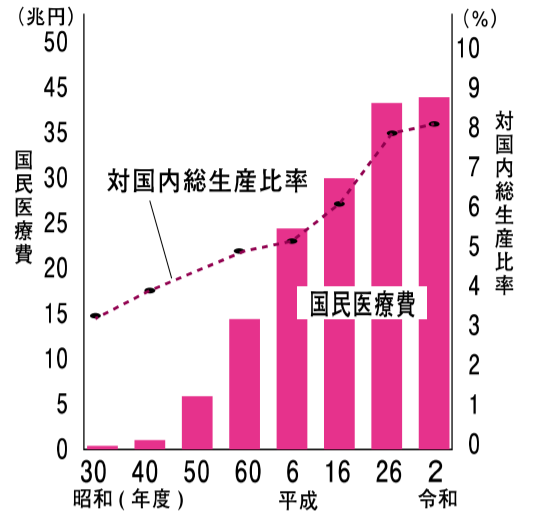
ジェネリック医薬品は、先発医薬品と同じ有効成分を含有し、同様の効能・効果を有した医薬品(図1)で、先発医薬品の有効性や安全性などの知見を活用して製造できることから、低価格で提供されています。

ジェネリック医薬品のメリットは2つあります。1つ目は、特許の関係で製造方法や添加物が異なる場合、使用感、効き目、副作用が異なる可能性があることです。2つ目は供給が不安定なことです。ジェネリック医薬品製造会社の品質管理などの不正

2つ目は安価であることです。医薬品の開発には10年以上の時間と数百億〜数千億円規模の費用が必要ですが、ジェネリック医薬品は開発にかかる時間や費用を抑えられるため、価格は低く設定されています。

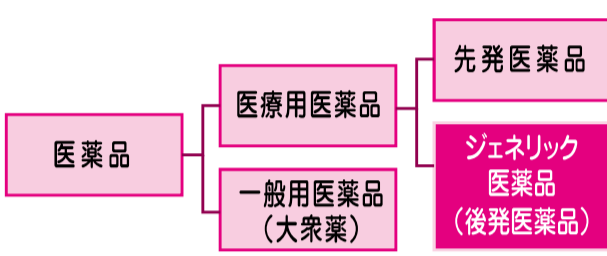
ジェネリック医薬品を使用することは、個人の医療費負担削減はもとより、医療費全体の効率化につながる可能性があります。ジェネリック医薬品を使用することは、個人の医療費負担削減はもとより、医療費全体の効率化につながる可能性があります。

増え続ける国民医療費



出典：厚生労働省 令和3(2021)年度 国民医療費

ジェネリック医薬品とは(図1)



ジェネリック医薬品は、先発医薬品と同等の有効成分を含有し、同様の効能・効果を有した医薬品(図1)で、先発医薬品の有効性や安全性などの知見を活用して製造できることから、低価格で提供されています。

ジェネリック医薬品と先発医薬品の違い(図2)

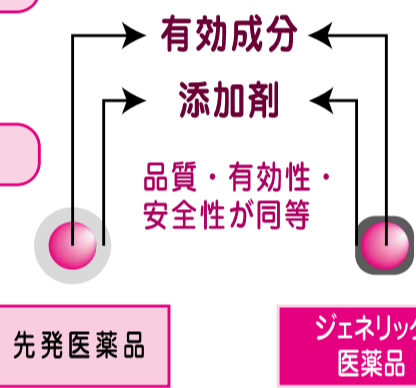
同じでなければならないところ

有効成分の種類・量

違ってよいところ

形や大きさ
色
味

添加剤 など



部を患者の自己負担とすることも検討されており、ジェネリック医薬品使用促進の流れは続々見込みです。(健康科学センター 加藤睦子)

アイフレイルを知っていますか 早期発見で予防や治療を

目が疲れやすい。暗くなると見えにくい。さまざまな目の不調を年のせいと軽視していませんか。もしかしたら、「アイフレイル」かもしれません。

話題の健康づくり **アラカルト** 53 目の健康寿命



アイの場合、目の酷使を避ける・眼鏡・点眼・温罨(おんあん)法などが改善方法です。温罨(おんあん)法は、スーパーなどで購入できる眼用温熱マスクをまぶたに当てることで、マイボーム腺機能(涙が乾かないよう油を分泌する機能)や眼精疲労の改善に効果的です。



まず、下表 10 問のアイフレイル自己チェックをしてみましょう。該当項目が 2 つ以上ある人は、アイフレイルかもしれません。改善方法は原因によってさまざまです。幅広い年齢で訴えが多いドラ

アイフレイル 自己チェック

- ①目が疲れやすくなった
- ②夕方になると見えにくくなることもある
- ③新聞や本を長時間見ることが少なくなった
- ④食事の時にテーブルを汚すことがある
- ⑤眼鏡をかけてもよく見えないと感じることが多くなった
- ⑥まぶしく感じやすい
- ⑦まばたきしないとぼんやり見えないことがある
- ⑧まっすぐの線が波打って見えることがある
- ⑨段差や階段が危ないと感じたことがある
- ⑩信号や道路標識を見落としたことがある

出典：アイフレイル啓発公式サイト

(健康支援課 中田 真理子)

うれしいことがあると不快な症状が軽くなることは、誰でも経験したことがあると思います。ところが、西洋医学は心と体は別のモノという考え方で発展してきたため、現代医学では心と体のつながりを学びません。



心は病を作り、治す 信じる者は救われる

それにもかかわらず、薬の効果の判定時には心理的な暗示により偽薬で症状が改善する人が約 3 割もいるとして、プラセボ効果を考慮しています。これはまさに心と体がつながっている証拠だと思えます。



一方、漢方では心と体は強く影響し合うという心身一如(しんしんいちによ)という考え方があります。漢方では、「気」という生命エネルギーのようなものが乱れることが病気と考えます。喜、怒、憂、思、悲、恐、驚という七情(しちじょう)は、気に影響を与え、怒ると気が逆上する、驚いて気が動転するなど、感情と気の間

係は日本語の中にも残っています。感情が強すぎたり長く続いたりすると病気になるとしています。

現代、気は最先端の物理学である量子力学により解明が進められています。気を解明していくと、科学の常識に反する部分があり、現代医学の常識を根拠から覆す可能性もあるといわれています。

漢方薬は、人間の自然治癒力を高める手伝いをしていて、治しているのは患者さん自身だと思っています。時々患者さんから、話を聞いてもらった気が楽になって症状も軽くなった、と言われることがあります。

人間は、自分の心の持ち方を変えるだけで、「気」を整え、体調を回復させる力があると実感しています。

(健康科学センター 診療所長 武生 英一郎)

家庭で取り組む省エネ活動を促進



④広島県

省エネは、光熱費を抑えるだけでなく、エネルギーの安定供給や地球温暖化の防止に繋がります。冬季(12~2月頃)は、暖房使用などにより1年で最もエネルギー需要が増す季節ですが、それだけに工夫によって大きな省エネ効果が見込まれます。

現在(令和6年1月1日時点)広島県で実施している、家庭向け省エネ対策を促進する取り組みをご紹介します。

①ひろしま LED 照明器具購入応援キャンペーン

概要：家庭における消費電力の1~2割を占めている照明器具のLED化を促進する取り組みとして、対象店舗でLED照明器具を購入すると、1万円を上限に最大半額分のキャッシュレスポイントなどを交付するキャンペーン。

購入期間：令和6年1月31日(水)まで(予算上限に達し次第終了)



②冬の光熱費節約チャレンジ

概要：家庭の省エネを応援する企画として、各家庭で「4つの省エネアクション」に約1ヶ月間取り組んでいただき、我慢や無理をせず、楽しく光熱費節約を実感いただくキャンペーン。エントリー後に、事後アンケートを回答した方の中から抽選でQUOカードPay1,000円分を贈呈。

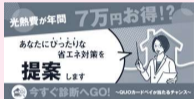
エントリー期間：令和6年1月15日(月)まで



③「うちエコ診断 WEB サービス」の受診促進キャンペーン

概要：簡単な質問に答えるだけで、各家庭にあった省エネ対策を提案する「うちエコ診断 WEB サービス」。1月中に診断を受けてアンケートに回答した方の中から抽選でQUOカードPay1,000円分を贈呈。

キャンペーン期間：令和6年1月31日(水)まで



アンケートに答える来場者(上)、パズルを楽しむ子どもたち(下)

当協会は、昨年11月4日に開催された、広島テレビ(広島市東区二葉の里)主催の「みんなで防災フェス2023」に協賛団体として出展しました。イベントは、

広島テレビ本社1階ホールと隣接のイベントスペース「エキキターレ」で行われ、県内外から約4千200人が来場しました。当協会は、広島県と2015年5月に災害時の遊休井戸等の共助利用に係る水質検査に関する協定を締結しており、自然災害や大規模事故などで飲料水の確保に支障をきたした場合、市町を通じて遊休井戸などの水質検査を無償で行う取り組みを行っています。当日は、「平成30年7月豪雨」の際の給水支援や井戸水検査などの様子を写真で紹介したほか、災害時の水利用に関するアンケート調査を実施しました。また、子どもが楽しめるようにヒノキの間伐材を使ったパズル体験コーナーを設け、当協会のブースは終日賑わいました。(経営企画課 山下祐治)

みんなで防災フェスに出展 災害支援の写真紹介やアンケート実施

予防医学事業中央会賞(小宮記念賞) 予防医学事業中央会奨励賞



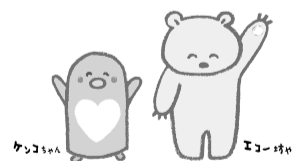
予防医学事業中央会櫻林理事長(左)とフォトセッションする大岡センター長(右)

予防医学事業中央会奨励賞を受賞した三好主査

協会役員一同、大岡センター長と三好主査の今後の活躍に期待します。

当協会・健康科学センターの大岡由美センター長が「予防医学事業の実務に20年以上従事し、中央会本部活動による予防医学運動の推進に特段の貢献があった者」として(公財)予防医学事業中央会の「予防医学事業中央会賞(小宮記念賞)」を受賞しました。また、三好直美企画管理課主査が「予防医学事業の実務に10年以上従事し、他の範となりさらなる今後の活躍を期待する者」として、「予防医学事業中央会奨励賞」を受賞しました。両名とも10月27日に島根県で開催された2023年度第68回予防医学事業推進全国大会において表彰されました。

令和5年度 地区衛生組織活動資金募集



通称 『環境・健康募金』

環境・健康募金(旧 健康感謝募金)は、昭和35年から実施し、令和5年度で64回目を迎えました。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として、地域社会に役立てられています。

環境・健康募金
総額(円)



38,690,494円
(令和5年度 11月末実績)

市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
府中町	1,109,000	84.9
海田町	1,872,000	88.3
熊野町	1,368,400	98.9
坂町	349,400	101.5
江田島市	1,648,560	98.1
竹原市		
大崎上島町	295,600	100.2
大竹市	2,316,210	97.9
廿日市市	3,065,870	89.6
廿日市市大野	2,539,806	100.6
廿日市市佐伯	295,851	84.0
廿日市市吉和	52,300	100.8
廿日市市宮島	184,325	94.6
安芸太田町	660,450	98.9

市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
北広島町		
安芸高田市	1,604,261	79.0
東広島市	4,233,900	98.7
三原市	1,279,009	77.7
世羅町	540,720	76.0
尾道市	3,371,400	78.3
福山市	8,117,980	94.7
府中市	1,013,330	98.3
神石高原町		
三次市	1,000,000	46.2
庄原市	1,713,650	75.9
その他	58,472	86.8
合計	38,690,494	82.9

市町別一覧表

※この表は、各市町公衛協の令和5年度11月末日現在、募金委員会に振り込まれた額を記載しています。

環保協に配分された募金は、以下のような事業に活用しています。

【学習教材貸出事業】

環境づくりや健康づくりに関する各種グッズの貸出をしています。貸出グッズの一覧は、当協会ホームページからご覧いただけます。
(<http://www.kanhokyo.or.jp>)

NEW がん検診受診勧奨パネル(4枚組)
がん検診の内容やその重要性、がんを予防するための生活習慣について紹介しています。

